

【講演】 信仰と食 ―ハラールから考える―



静岡ムスリム協会事務局長 アサディ みわ氏

【ハラールとは】

ご紹介に預かりましたアサディみわです。今日はよろしくお願ひ致します。縁があつて私はイスラム教徒になり、静岡市に戻つてきてから12年ほどムスリムとして暮らしております。皆様にお伝えしたいことがいくつかありますが、特に今日は「信仰と食」というテーマで、ハラールについてご紹介させていただきます。ハラールというのはアラビア語ですが、「イスラムの中で許されている」という意味です。「ハラールフード」という言葉もありますが、神様に許された食品のことです。実は、ハラールというのは食品だけではなく生活全般に関わつたことをいいます。生活の中でというのは食事も含めて、結婚式もハラールな方法で挙げる。お葬式もハラールなやり方にのつとて行ふ。他にも経済的な収入の得方についてもハラールなやり方ですという風に、生活のさまざまな部分で出てくる言葉なのです。

【イスラムとは生きる指針】

今日は信仰を食とつなげてお話しさせていただくので、少しイスラムのことについて先にさせていただきます。

イスラムとは、私から見ると宗教というよりも生き方の指針であると思います。神様に教えられた人間としての生き方の指針。その言葉から派生したムスリムという言葉は、神様を信じ、そして神様に帰依して生きる人という意味です。今はイスラム教徒と簡単に訳されますけれども、本来は神様、私たちはアッラーとアラビア語で呼びますが、神様、アッラーを信じて、そして神様の言ったことを信じ、それに基づいた生活をしていく人ということです。イスラムの最も重要なドクトリーの部分ですが、神は唯一であり、ムハンマドは最後の預言者であるという、この一文にすべてが込められています。私のようにもともとイスラム教徒でなかった者は、ある日イスラム教徒になりたいと思つたときどの様なことをするのかという、この青い文字の一文を言うだけなのです。口に出して自分の信じていることを証言する。その行為だけで、その日その瞬間からイスラム教徒になる。非常にシンプルといひますか、まさに信仰と神は何も間に挟むものがないという、そういったシンプルさがここに表現されていると思います。

イスラムの中では、もちろん神様は一つ、唯一神教と呼ばれていますが、神様は一つであり、私たち人間は神を崇拝するために創られたと。この言葉に抵抗がある方もいらっしゃるかもしれませんが、人間は神様によって創られたものであり、この世の中すべてのものをお創りになつたのは、創造主の神だと。そして預言者たちと書いてあるのですが、これはイエス・キリストですね。ムハンマドだけではなくイエス・キリストも当然預言者のお一人ですし、モーゼやイブラーヒームも神様から信託をいただいて人間にメッセージを伝えた預言者たちです。そういった方たちも含めてイスラムでは預言者と考えますし、その最後の一人となつたのがムハンマド。その最後ということの意味ですが、神様から人間に対してメッセージを送られてきた時間が何千年もありますけれども、ラストパーソンとして、これ以降預言者は送らないとい

うことも含まれますし、この最後に送ったメッセージを人間が勝手に変えてはいけないという、一字一句変えてはいけないという強いメッセージも共に送られたのです。

神様のそうした言葉を集めた総集編ですね、完成版がクルアーン。今まではコーランというふう日本語で表現されてきましたが、最近教科書とかではクルアーンという風に、よりアラビア語の発音に近い表現をしていただいていますので、クルアーンと呼ばせていただきますが、クルアーンは一気に一晩で神様から与えられたわけではなくて、預言者ムハンマド40歳の時から63歳で亡くなる時までの23年間の途中で託された信託の総集編となっております。神様の言葉と預言者ムハンマドが人間のモデルになるような模範的な人だったということもありまして、彼の言行録、言った言葉や行なったことを記録に録っております。それをハディースと呼びますけれども、その言行録ハディースをもとに、私たちが今どのように生きるのかというお手本として利用していると言いますか、原典として考えております。

【ハラールとハラーム】

それから言葉の解説になりますが、最初に出てきたハラールは、アラビア語で **حلال** と書きます。食べ物のパッケージに印刷されていることもあります。許されているという意味です。逆にハラーム、ハラームと呼ばれているものは禁止されているもの、禁忌となっているものです。そしてその中間にあり、どちらに属するのか分からないようなグレーエリアにあるものをシュブハと言い、疑わしいものという意味で捉えています。

食に関してのハラールとハラームの記載がクルアーンの中にあり、「あなた方、人よ、よい清いものを食べ、よい行ないをしなさい」。このよい清いものというのが、ハラールの一つの表現になっております。そしてもう一つは禁じられたものですね。赤字のほうになりますけれども、ここにいくつかリストがありますが、死肉、つまり死んだ動物の肉であったり、血、それから豚肉、アッラー以外の名前を唱えて殺されたもの、他の神様に捧げられたお肉ですね。それから絞め殺されたもの、打ち殺されたもの、墜落死したものの、こういったものは食べてはいけないと言われているお肉、ハラームのお肉ですね。

これ以外にもクルアーンにはいくつかハラールとかハラームに関する記載があるのですが、こちらは、特にわかりやすいものとして紹介してあります。「何で豚肉を食べないの」と言われますが、豚肉だけを食わないわけではなくて、豚肉はあくまで私たちが食べてはいけないと言われているものの中の一つなんです。それからここにはないですが肉食獣、他の動物のお肉を食べるような動物のお肉も食べません。例えば熊であったりとか、鷹や鷲といった猛禽類のお肉も食べません。あとハラールな食事、清くて健康に良いものというのは、具体的にいうとこんな感じなんです。ハラールな方法で屠畜された動物。例えば、羊や牛や鳥肉でも、きちっとイスラムの方式にのっとりた屠殺の方法であることが大事です。具体的にいうとメッカの方向に向かって感謝の言葉を捧げたのちに動物の首の根もとを鋭利な刃物で切って、逆さにして血抜きをするという方式。これは残酷な殺し方というふうに思われるかもしれませんが、動物の頸動脈を一気に切るということは、ここに脳に伝わる痛みが一瞬でなくなるというふうに言われているので、動物に恐怖を与えず苦しみを短くすることにもつながり、慈悲のある殺し方と、イスラムでは考えられています。ここについてはいろいろご意見があるとは思いますが、イスラムではそのように屠殺した動物のお肉だけがハラールなお肉として考えられています。そういったものにはハラールマークというマークが肉のパッケージに付いていたり、イスラム圏に行くとお肉そのものに印が押してあったりすることがあります。それから一般的にいう野菜、果物、穀類ですね。パンとか小麦とか、お米とか、そういったものも当然ハラールです。シーフード、乳製品、卵、自然界に存在するもののほとんどがハラールなものと考えられています。そして一部、ハラームと呼ばれるのが、ハラールでないお肉や、一般的にいわれる、豚肉であったりお酒であったりというところです。

【イスラムにおける食の概念】

そしてイスラムにおける食の概念ですね。食するものはハラールで、なおかつ健康的で安全でなければならない。私たちが受けているこの体というのは、アッラーから、神様からいただいた大事なものですから、自分の体を傷つけたり毒したり害したりするようなことはしてはいけません。ですので、体に入るものを選ぶときに気を付けることは3つあります。アッラーが禁止したものでないこと。ハラームな食品を食べないということ。それからハラールな方法で入手したもの。これは、例えば、ハラールなお肉を買う、ハラールチキンを買う。でもその買うお金が人から盗んだものであったら、もうそのお肉自体、もう食品自体はもうハラールではありません。やってはいけないことをして得た収益、経済的な収入というもので買ったものや、実際人から盗んできたようなものはもうハラールではありません。あとやってはいけないことの中に詐欺とかギャンブルとかありますけども、イスラムの中で賭け事というのは禁じられたことですので、そういったことでもらってきたものは駄目なのです。そして最後に健康に害のないもの。当然といえば当然なのですが、毒物であったりドラッグであったり、理性を失わせるようなもの、体を害するものは私たちの体を毒してしまうので、イスラムでは禁じられています。

【日本のハラールの現在】

今、日本の中でもハラールな食べ物を必要としている人たちがいます。それは私たち-in 日イスラム教徒もそうですし、海外から観光やお仕事で来られる方たちです。留学生の方たちも含め、住む場所が変わっても信仰を続けているわけですから、その生活の中で求める食べ物、ハラールな食べ物を当然3食、おやつも含めてですけれども、食べたい。この時勢の中で、今、ハラールな食べ物を出そうという動きが日本の中で広まっています。東京五輪もですし、ラグビーワールドカップで静岡県は選手やサポーターたちを受け入れます。それから大阪万博。どんどんこれから海外の方たちが来ますが、イスラム人口が世界の4分の1と言われる中で、イスラム教徒の方たちも当然ハラールフードを食べる、食べたいという状況で日本へ来ます。そういった中でお店側が提供していきたいという動きもあるのですが、どうも最近ハラールが特別な食べ物だと思われがちです。でもそうではなく、和食の中でも、例えば、お刺身と味噌汁とご飯といった形は、もうそれ自体がハラールの分野に入ります。それから洋食でも、例えば、スパゲティでもハラールなスパゲティはできます。トマトソースやシーフードのスパゲティで動物性の油脂を使わなかったり、コンソメを使わない場合はハラールでできます。そして中華。野菜ラーメンやハラールなチキンを使ったハラールラーメン、ハラール餃子ができ始めています。ベジタリアンの方も含めですけど、食の多様性が今、日本の中で広がってきていて、学食の中でも、ハラールな食事を学生さんにも出そう、教職員の方にもそうした食事を必要とされる方もいらっしゃるという認識に基づいて、これからもこの動きは増えていくと思います。

【多様性の中で共生するために】

信仰と食というと、戒律が多くてとても厳格なものというイメージがもしかしたらあるかもしれませんが、私たちムスリムの視点からいうと、ハラールの食事をするということは、戒律を守る、もしくは神様のおっしゃったことを守っていくとすること、その一つの信仰行為になるんですね。信仰実践といってもいいかもしれませんが。私たちにとって肩肘張ったものではなくて、できるだけイスラムの教えの中にあるものを守り、それをすることによって、神様の目の中で喜ばしい行為として映るようになると思いながらやっているのです。食事だけではなくて、例えばこういったスカーフを成人の女性は身に付けるようにと勧められていますので、そうしたり、当然礼拝をしたり、そうした行為を日々生活の中で繰り返しておりますので、その中の食というものも自然に実践していきたいことの一つとなっています。私は日本人なので、家庭で作る食事は和食もありますし、時には餃子も作ったり、主人がモロッコ人なのでモロッコ料理を作ったりし

ますが、全部ハラールでできるんです。信仰をもちながら日本の中でハラールな食事をしていくということに、大きなハードルを感じないのですが、ただ外食とか、ムスリムでない方と食事に行くときに、あるいは防災の避難訓練等で炊き出しするじゃないですか。そうすると出される食事ってほしい何が出ます？

豚汁とか出ませんか？ 「すみません、それ食べられないです。」とはなかなか言いづらいですけど、ただそういった辺りも皆さんにも知っていただく、ご理解いただくためには言っていかなければいけないという必要性も感じています。皆さんは今日、食について学んでくださっていますので、学校や地域の防災訓練等で、もしムスリムの方がいたら、是非一言お声を掛けていただけると大変ありがたく思います。食とハラール、信仰と食。私たちは日常の中で肩肘張らずにやっているつもりなのですが、是非その辺り皆様とも今後知識や情報を共有しながら、多様性の中で共生できたらありがたいと思います。今日はどうもありがとうございました。